リノベーションまちづくり構想策定委員会第3回公開会議（オンライン）議事録

1　開催日時　令和2年10月23日（金）17:30～19:00

2　開催手法　Zoomによるオンライン

3　参加者　　計40名：策定委員17名、関係者・都市政策課職員等12名、一般11名

番号	名前	役名	区分	参加
1	小友　康広	副委員長	産業界有識者	○
2	木村　直樹	委員（策定部会）	産業界有識者	○
3	清水頭　聖子	委員（策定部会）	産業界有識者	○
4	長井　謙	委員長	市職員	○
5	松田　英基	委員（策定部会）	市職員	×
6	中村　良則	委員（策定部会）	外部有識者	×
7	上田　直輝	委員（策定部会）	外部有識者	×
8	青木　純	委員（策定部会長）	外部有識者	○
9	竹内　昌義	委員（策定部会）	外部有識者	×
10	山崎　満広	委員（事業部会長）	外部有識者	○
11	遠藤　元治	委員（策定部会）	外部有識者	○
12	高橋　潤吉	委員（事業部会）	産業界有識者	○
13	伊藤　直樹	委員（事業部会）	産業界有識者	○
14	高橋　久美子	委員（事業部会）	産業界有識者	○
15	福田　一馬	委員（事業部会）	産業界有識者	○
16	高橋　智彦	委員（事業部会）	産業界有識者	○
17	伊藤　俊樹	委員（事業部会）	産業界有識者	×
18	葛巻　徹	委員（事業部会）	産業界有識者	○
19	照井　智子	委員（事業部会）	産業界有識者	×
20	佐々木　江美	委員（事業部会）	産業界有識者	○
21	似内　一弘	委員（事業部会）	産業界有識者	○
22	茂庭　裕之	委員（事業部会）	産業界有識者	×
23	平賀　恒樹	委員（事業部会）	産業界有識者	○
24	土屋　昌美	委員（事業部会）	産業界有識者	○

4　顛末

（1）開会：都市政策課　澤田課長

（2）委員長挨拶：長井副市長

・夕方のお時間、委員の皆様、一般の皆様も、県内外からお集まりいただき感謝。

・物理的に集まってるわけでなく、インターネットを介してつながっている状態。

・新型コロナウイルスの影響で思うような活動ができず苦しい思いをされているかたが多いと推察。行政としても手探りで支援策等検討しているところ。至らないところがあってご不便をおかけしている点あるかもしれない。少しずつでも良い方向に改善していこうと思っています。

・コロナの影響で人が集まること自体への見直しが起こったなかでの本会議、前回の西村さんとの話の中で、「賑わいづくりっていう表現をやめませんか」という問いかけは、奇しくも今の状況にマッチするものとして去年から議論していけたのではないかと思う。

・今日の検討内容も、量ではなくて質、という案が示されている。これまでの会議でも、単なる賑わいの話ではなく、日常生活の質についても検討をし、今ちょうど新しい生活様式への転換にむけて基本的な方向性を持ち合わせることができる。

・今日は委員会としての最大公約数的なまとめを提示する。これはこれからのリノベーションまちづくりのビジョンとして、行政の方でまとめたものになっている。これをたたいて、民間のみなさんの意見を反映して尖ったものにしたいと思っていますので、みなさんの協力をお願いいたします。

（3）ファシリテーター紹介

青木）今日ここで考える構想はこれから進んでいく道の幹の部分。具体的なものは、この幹から発展的についてくるもの。この幹があることによって、花巻の新しいチャレンジがどんどん生まれてくる。チャレンジ自体は民間主導でありながら、共通言語として行政も持ち合わせて、一緒に進んでいかなければならない道。この構想は「まちを盛り上げるために、民間ベースだけでなく行政と一緒に進めよう」と言いやすくなるためのものとして捉えてもらったらいいと思っている。

山崎）１０年・２０年後に振り返ったときに、ここで話した内容が実現化されていて、すごくまちが変わっていると思うし、実際にここで生まれた言葉ややり方が近い将来標準的になっているんだと思う。なので、今、すごく重要な話に向き合っている。

本当に大事なのは、リラックスした状態で、本当に日常が豊かになるのには何が必要なのか、をここで頭を悩ませながら生れてきた言葉とか考えを議論できたらいいので、普段のベストな状態でリラックスしてディスカッションできるとよいと思っています。

（4）協議（ここから青木座長による進行）

青木）リラックスということで、自宅からの方も多いので、ぜひ画面をオンにして、zoom だけれど、できるだけ顔を出してもらって、名前もできるだけわかりやすくしてもらえるとありがたい。まずはじめに、8月以降花巻で起こった変化の近況報告から。

伊藤ケ）では、街の中の変化ということでお話しします。

・コロナでイベントができずにいた物販事業者の支援ということで、上町商店街の主催で、お盆を除く毎週土曜日の夕方 3 時間、広場とビジターセンター前で 6 回、マルシェを開催。雨の中、暑い日も実施し、14 店舗の出店と 2400 人余りの集客。あったかいつながりの持てる時間となりました。感染症対策も取って、最終日は本来ならばお祭りにあたる日でもあり、笛の生演奏、綿あめや祭りのビデオ紹介上映が行われ、別の団体による半纏展示と、あと祭囃子の放送などがあって少しだけ祭りらしくなった。

どでびっくり市の開催 10/18（日曜日）には集客が起こり、1 万 2 千人集客となった。同日にリノベーションスクールメンバーによるコモレビ朝市も開催され、400 人以上が集まった。花巻は、コロナに負けないでいろいろなことをやっていく、と注目されている。

・この冬広場のイルミネーションを公園緑地課で企画予定。

・そのほかも数件動きあるので、ご本人からお話ししてほしい。

佐々木江）花月堂ビルは 2018 年、第 2 回のスクール案件を私の会社でリノベした。もともと 3 つのドアがあったところを、それぞれ違う人に使ってもらえるようにし「カゲツドアーズ」という名前にした。

1 つは集会所のような広いスペースにしたところ、老舗ジュエリーショップの展示販売会の会場として使いたいとの話を受けて、10 月頭にプレオープンした。今後これを進め、年末のグランドオープンを目指す。

福田）ゲストハウス meinn を運営しているが、コロナ禍で苦戦していたところ、新たに本や映画楽しめる場として使いたいとの話をいただき、ゲストハウスのリビングで実施、31 日にプレオープンイベントを関係者でやる予定。11 月から本格化する。ゲストハウスで、今までなかったカルチャーを発信できるようになればと思っている。

高橋智彦）水道屋の高橋です。お酒を楽しく飲むのが好きで、リノベということではないけれど、埼玉に行政と一緒に行ったりして、双葉町を盛り上げようと思っているところ。立地適正化計画は場所としては都市機能の誘導区域からは外れているところですが、盛り上げたい思いは個々の皆さんと同じでして、実は、双葉町の 1 F にイーハトーブという居酒屋が入っているビルを丸ごと 1 棟買った。

コロナで大変だったので、オーナーチェンジという形。飲食 6 店、住居スペースが 2 間、計 8 部屋のあるビル。もとは 4 室埋まっていたが、いろいろ飲み歩いて色々な人に声をかけて満室になった。住居スペースに

は、仕事上の関係者で青森、宮城からきた人たちに、ホテルではなく、ビルに住んでもらって、ちょっとだけど連動性を持たせるようにしている。コンセプト１・２Ｆは年配の方向け、３Ｆは若い人が集まるように進めている。

皆さんのようにかっこいいことはできないが、飲みながらアンダーグラウンドで街を盛り上げていきたい。

青木）めっちゃいいですね。皆さん、智彦さんに続きビルを買いましょう。ビルオーナーが変われば街が変わるということ。飲み歩くことが１番の営業活動になってる。やりたいこととやるべきことが一緒になってるのが素晴らしい。コロナで大変な状況のなかで、希望が欲しいところで、このような動きができるのがいいですね。

まちが市民主体になり、行政が今後動きやすくなるためにも、根幹となるビジョン、構想のサマリーを共有してより肉付けできたらいいと思っている。ケイ子さんから、この説明をお願いします。

伊藤ケ）はい、サマリーと構想の位置づけについて、合わせてご説明します。

〇構想の発行者についてですが、発行者は「構想策定委員会」となります。内容としては、まちづくりの実践者が主体となって、これからのビジョンの幹の部分を作り、市に意見として提言することが、構想の立ち位置になる。

内容は、大きく４部構成。１章には今起こってきた変化、マルカンプロジェクトはじめ、小友ビルやリノベーションスクールのことを入れていきたい。２・３章が幹の部分。ビジョンとどう実現するかを入れたい。ここを今日議論したい。まちづくりの考え方、ビジョンの実現に向けた動きについて、たくさんでなくてよいので、今ある動きを元としてまとめたい。４章はこれからの人的資源・応援団としてまちを盛り上げようと力添えいただいている方を中心にメッセージを載せたい。最後に、作成メンバーの写真付きメッセージ。付録として現状統計データ、これは追いかけたい数値についてあとでご意見をお願いしたいと思っている。そして SWOT 分析や、これまでの議論の実績を入れていきたい。

〇サマリーについて、２章３章の幹の部分となる。これからの時代に向けてどう花巻の今持っている良さを尖らせながら、まちの経済循環をつくりながら進めていくのかを考えていきたい。

事務局案なので、ごちゃごちゃしているところもあるが、みんなで叩いてもらいたい。

現在案としては「住んで働いて遊ぶ学ぶ」というまちなかとしての重要な役割を考えていく際に、質にこだわって一体的に新しいカルチャーを発信していくというスタンスを出すのが、花巻らしいと考えた。

今あるモノを活かし、寛容性という言葉が前回出たけれど、ここでは包摂性、インクルーシブというか、あらゆるものを受け取りながら、質にこだわって後世に残し、成長して変化しながら楽しく暮らして行けるようなまちなか、がいいと思っている。

下段にあるイメージ写真は、ボーヴァンの住宅の様子とポートランドのまちの様子を掲載。建物でも通路でもない場所がまちなかにあっていろんな人たちが自然に出くわしていく。町と通行している方もいるが、建物内だけではない、オープンな形で、いろんなものがここで出会うような場、活力のある街中はこういう雰囲気だろうと思われるものを掲載している。オープンに滞在できる機会が街中にあって、様々な形でいられる。一人であってもいいしグループでいても良い、「住む・働く・遊ぶ学ぶ」に誰もが参画していくような３つの視点で書いている。

この３つの卵が一体的に含まれて変化していく文言をイメージしてまとめたいところ。

実態としてシェアハウス、災害公営住宅、子育て世帯向け住宅、グループホーム、マルカン、おもちゃ美術館などは事業の変化として一緒に掲載している。これらを活かし、次の段階としてノーマライゼーションに沿って働く場なども作っていくことがあると良いと思う。もっと尖れるような意見が欲しい。

青木）気になったことを被ってもいいので、活発な意見をいただきたい。限られた時間で散漫になってもいけないので、構想の中で実現したいこと、入れておきたいことからお願いしたい。チャットでも OK です。一般参加の方もチャットで参加ください。時間そのものはこれから 30 分の中で進めていきたいと思います。

小友）２枚目の資料、住む、働く、遊ぶ学ぶ、のなかで働く、の働くのところが興味関心があって進めていこうと思っている。聞いていて思った点をいくつか。まず、相乗り立上げというか、事業継承で誰かが何かをやってきていて若い世代がそれを継いでいく、そういう可能性が花巻らしいところと思っている。智彦さんのビルの話もその要素があって、歴史や文化があるからこそ、今まで高齢化しつつもある程度水平に維持してきて、もちろんちょっとずつ縮退化しているけれど、新しい世代がそれを受け継いでプラスアルファを加えて行けることが実際に可能で、そうした花巻の伝統を受け継ぎながら若い世代が高い確率で定着して行ける、最初から大きく伸びるわけでないけれどもしっかり展開していきやすい形ではないかと感じる。これは全く新しいまちや住宅街ではできないことだし、この流動性とか連動性は、自分がマルカンビルに取り掛かる際に感じたことで、その要素は構想の中に入れたほうがいいと思う。そして、「相乗り立ち上げ」と言ったけれど、ゲストハウスと本屋のように、映画上映したいけど映画館規模で新規投資は難しいっていうとき、スケボーパークもそのとおりで、先行している事業者の協力を得て始めていく形っていうのが馴染みそう。

もちろん新しい物件が回っていくことは良いように見えるが、結果短期間で潰れては意味がない。まず相乗りで立ち上げて、双方の事業が大きくなっていって手狭になったらそれぞれ独立してやっていくことができるようにするとか。そういう視点で連携しながら推進していくのが良いと思う。

ここで市にやってもらいたいこととしては、各種メディアへの周知や広報だし、こういったことをどんどん推進するよ、何なら税制優遇もあるよというところまで行くと大変ありがたいし、花巻らしい事業者同士の連携がとられていくことが大切だと思う。他の自治体のリノベスクールに講演に行った中では、花巻はほかのところよりも連携取りやすく仲が良いと感じている。

次に、人型消費、応援型消費の推進。今はネットで最安値を探せる時代。安さで選ばれるのではなく、あの人を応援したいという人型消費、応援型消費でこの土地が選ばれていくことになるし、これがないと逆に選ばれなくなると思う。花巻の人が仲がよくて連動していることは選ばれる理由に叶う。花巻で事業やってる人達について応援したいと自分も思うし。これを踏まえて市にお願いしたいことは、地域外にどれだけお金が出ていて、どれだけ残っているのか、外から獲得しているか、などの指標を公表したり、小学生から大人まで、地域内循環や地域内消費が上がっているよとか、これだけ海外にお金が流失しているよ、とかを示していってほしい。こうした視点があれば、所得の向上や市全体の経済の活発化について注目し次の活動につながると思う、そういう施策展開を期待する。

もう一つ最後、副業・小商い・ボランティアの推奨。サラリーマン・公務員だけど、2 日間の休みのうち 1 日をまちなかで活動していこう、例えば、都市機能誘導区域内だったら公務員会社員が副業やって OK とか、ボランティア小商いしやすくするとか。市の職員がまちなかでの事業の現場にいて、店員とか窓口とかを手伝ってくれる風土なったら、まちなかで事業やるよという新たな人材が出てくると思う。

この 3 つ、・事業継承相乗り立上げ、・人型消費応援型消費、・小商いやボランティアの推奨、これが市民の当たり前になるようにもっていくことと、具体的にこれらの何かの要素が影響して上がっているという要素分解か評価指標があると良いと思う。

青木）コロナによって人型というか応援型の消費が大きく進んだ。今一番受け取りやすい、ビジネスが厳しい中で今までのことを生かして相乗り型を策として明文化するのは大事。潤吉さんのチャットからは、「まちの質を高める」ということは「まちの不動産価値をあげる」という捉え方はできませんか、とありますが、今の話の延長上にあって、それが進むことによって不動産の価値が高まり、地域の価値が高まり、例えば、智彦さんのビルも買った時より高く売却できることができたら、また次の担い手に受け渡すことが出来たら買った人にもメリットがある。そういう事を本構想に入れられれば良いと思います。

福田）もし、質にこだわる、とか質を高める、ことを自問自答したら怖いかもと思った。質が高いに越したことはないが、質が高いものを作れ、という感じがあるので、もっとフィットした言葉に変えたい。

ちょうどこのスライドの絵を見て、楽しそうだし素敵なシーンが載っていて、爽快の「快」が浮かんだ。マルシェや温泉などもそうで、心地よくて快いものを作っていこうぜという意味合いの言葉の方が良いのでは。

青木）「質の高い」という意図は、花巻はもともとカルチャーの発信基地で、内発的な要素、デザイン性やクオリティのところを見ていくことが良さそうだという事務局の思いはある。込めたかった思いは、「カルチャーを発信する都市」という要素。感性となると女性の意見が良いかも。

高橋久）先ず、小友君の事業継承・相乗り立ち上げの話。花巻はそういう事業者が多いと思うし、この時代に一人でゼロからどんどんやってる人は限られていると思う。事業継承は花巻には外せない要素だと感じる。福田さんの「質の高い」に引っかかる話を聞いて、まず何に対しての質なのかって言うと、家族の生活

に対しての豊かな質というのが重要で、金銭的な考え方から思想なども含めて、生活の時どれにでも該当する言葉としての意味が大きい気がする。私は家族との生活を中心とした質に対するイメージが大きい。家族を中心とした生活に寄り添った質、日常のことであって、特別じゃないことの要素、もっと日常を心地よくするということのほうが、誰もがスッと入って行けるのではないか。心地よく過ごすためには何が必要ですかね、という捉え方でいます。

青木）寧ろ特別じゃないという見方ね。良品計画では「感じがいい」をコンセプトにしている。感じかいいとか、心地いいとかなのかな。

潤吉さんからはイラストがいいとありました。要素として、イラストに入れて行けたらいい。イメージがバラバラにならないように、意見をいただけたらと思います。

高橋亮）福田さんの気持ちはすごく分かる。質の高いというのはプレイヤーからはハードルが上がる。でも一方、外から見る上では質が高いということはあるんだろうと思う。外から見ても、中から見ても合わさる言葉だといいと思うけど、どんな言葉がハマるかは分からない。

そして、「住む働く学び遊ぶ」を実現するために考えたこととしては、クラフト市やどでびっくり市のように、販売することや売ることでの出店ありきという前提を壊したら、もっと何か新しいことができるようになる。上町のとおりを歩行者天国にして、なんでも市みたいに日常的にやれて敷居が低いイベントをやったり、この写真のように焚火の様なものを点在させてみんなに発信して、日常的に盛り上がった場所をつくれるといいと思う。盛岡の材木町よ市はすごい人出。日常的に盛り上がるってところのヒントがあるんだと思う。

青木）「質の高い」がクオリティの完成度とは違う意味合いがありそう。今でいうところの「質」は、すなわち「自分が関れる、主体性になれる余白があること」を指す。受け身的なクオリティになるのは一世代前なのかもしれない。抽象的なものでなく、解像度が上がるにはどうとらえればよいだろう。

小友）タレントのキングコングの西野さんは、現代の「質」とは余白があるかどうかだと言っている。プロに素晴らしい料理を作ってもらってあとは食べるだけっていうのにはみんな飽きている。それより、お金を払ってでも関わっていくこと、例えばBBQのように食材もっていって、みんなで一緒に作り上げて一緒に食べるということが質が高い、関わっているんだという感覚をどうやって作るか、が現代のクオリティなんだということ。視聴者だったり消費者だったり、ただただ受動的だった人たちが、自分がこの中に関わってるんだという感覚をいかに作っていくかが、現代のクオリティ、質の高さである、と言っている。こういうのがこれにかかってくるのかなと感じる。

青木）なるほど、住んで働いて遊ぶを自ら関り高められるまち花巻、ということなのかな。

小友）例えば、子供がここでこんな遊びをしたいって言ったら、周りの大人が寄ってたかって一緒にやろうって言ってくれることとか、相乗り起業もおんなじで、「だったらうちの軒下使って」という感覚であって、それぞれの欲望や要望が重なりながら組み合わさって変化していってうまいことになっている、それを

クリエイティビティと感じていく人達で合わさって進めていく動きになると、現代のクオリテイが相当高いまちになっていく気がする。

青木）いまこういう会議やチャットとかが行われていて、これが日常的に起こって続いていくといいんだろう。智彦さんが「買ったよ、やる？貸すよ」「じゃやってみる！」っていうことが自然に起こる、お互いにお互いを知ってる環境が出来ているのが大事。チャットがどんどんあるんだけど。

山崎）みんな喋った方がいいよね。

小友）恥ずかしがりの地域性ね。

青木）今の考えの中から、結果言葉が紐づいていけばいいのかなと思う。

木村）福祉にハマっていて、金野歯科跡の物件を、グループホームと半分貸し事務所として改装工事をした。建築事務所なので、工事とか断熱とかが得意になるけど、住む人がどういう人であろうと幸せであるように、と思っていて、障がい福祉と建築を組み合わせてやっている。今度吹張町に新築でグループホームを立ち上げる。先日商店街に挨拶したところ。建物は少しスペースを空けて、商店街の方々も使えるようなコミュニティスペースを盛り込んでいて、周囲の人達にとっても暮らしの質が上がればいいと思っている。

青木）福祉の問題はこれから、今この全員にとっても大きな問題であるし、一人ではとても大変なので孤立させないで、まちぐるみで対応できたらいい。

木村）おっしゃる通りで、山の中に施設は建てたくなくて、街中でまちの人ととけ込めるといいと思っている。今事務所の隣に立てたグループホームも、会社のスタッフと交流出来たりしてるので、そういう調子で新しいコミュニティーができればと思っている。

青木）関西で「ハッピーのいえろっけん」をやっている知人がいて、彼は高齢者グループホームのリビングを地域に解放している。コロナの懸念があるような時期ではあるけれど、関わる人達がちゃんと気を配って消毒やマスクをしている。そこには、まちの子供達がそこに入って行ってゲームや宿題していて、認知症の高齢者もそれなりに子供と触れ合って混ざり合っている。そうすると認知症の高齢者が刺激を受け、有意義に生活をおくることができる。高齢者だけで閉じられた環境ではなく、混ぜることで、あらゆる意識を高めるってことをやってる。混ざり合うことによって結果質が高まる、充足感が結果高まるってことを真ん中に据えられればいいね。

木村）自立を目指しているけれど、一方で混ざって周りに溶け込めるって大事なことだと思います。やっていくうちにそれが出来るかなと実は思っていて、孤立しないで溶け込める形を出来る気がしている。いろんな性格の人がいるけれど、自然な形でやって行けるんじゃないかと感じる。

小友）おもちゃ美術館で関わったり働いてほしい。美術館のおもちゃでの遊びのコーナーのプロになってもらうとか。そういうのをやってみたい。

木村）すごく助かる。B 型の就労支援事業所に行っている方もいるけれど、基本的には一般のところへの就職希望を持ってる（賃金が高い）人が多い。

小友）ボランティアだとしても、半日やってくれるとマルカン食堂でお昼が食べれるようにしている。

木村）マルカンにすぐ近いので、できればそれをやって行きたい。よろしくお願いします。

山崎）最高だよね、こういう会話が生まれるのが花巻の凄いところ。

青木）マルカンが、なくなろうとしてたものを、結果として活かしあう方向で再生させたことが大きい。

小友）昔からそういうのがあったのは花巻。満州ニララーメンやとっくりさんの事業継承がそうだし、亮くんの KEG も事業継承だし、いろんな人がいろんなものを継いでやってきている。花巻の強みだと思う。

山崎）素晴らしいね。

遠藤）花巻にきて 3 年になるのですが、学生がまちの中に出てないことに驚いている。自分のゼミ生に花巻のこういう動きを伝えるとものすごく興味を持つし、今日もこういうのをやっていることを知らせたら、興味を持つと思う。地域貢献人材を育てようというのが学長の思い。花巻出身者だけでなく、県外から花巻にきている人も、自分が今住むまちに関わっていくことで関心が高まっている。

今年、花巻まつりがなくなったのはかなり残念で、通常 1，2 年生はまず大学の神輿で出て、3，4 年生になると地域の神輿に関わっていくようになる。そのまま花巻に住むかどうかは分からないが、地域と関わる経験が培われるのが重要だと思っている。例えばマルカンの 3 階とか空いてるところで、定期的に学生や市民の方々を繋いで興味持てる授業やゼミ活動などが持てると、学生がまちに関心を持つようになるのかな。あとさっき小友さんの花巻のキャッシュの話がありましたが、学内に専門の人がいるので、学術的にきちっとやって行くのが大事で、今日の資料の 2 枚目の下の方に書いているようなラボの立上について、地域創生の視点での花巻の特化版をマルカンでやって、学生も一緒に聞いて、ということがやれるといいと思っている。

小友）やりましょう。6 階で普通にお客さんがいるなかでもいいし、おもちゃ美術館でやってるのを子供がお兄ちゃんお姉ちゃんの邪魔しに来るとか、それこそカゲツドアーズとかでもやって、まちの中にいろんな人たちがいる場で、学生とまちの人が思わず混ざり合うとかから始まって、うまく行ったら 3 階の利活用にもつながるかもしれない。

遠藤）いろんな人と触れ合いそうなところに学生が出て行けるとよい。

小友）木村さんのグループホームや智彦さんのビルの一角だったり、いろんな人と触れ合えそうなところに学生を関わらせたら面白くなりそう。

木村）働く人も募集してます。

遠藤）住む場所とかもまちの中の方に誘導できればいいんだと思う。

高橋智）経済を学ぶのに、実際に商売に触れて、実際に利益を出す事業をやってみるのはどうか？そういうのに市がお金を出しやすかったりするといいのかも。うちのビルのお店が空いたら無料で貸してもいい、練習程度にやってみるとかすると、学生もまちに来やすかったり新しい流れが出来たりするのかなと思う。

遠藤）経済学科と経済法学科があって、マーケット論とか、ビジネスの若い先生がいるので、その筋で考えてみるのは可能。

髙橋智）店舗空いたら学生にすぐ貸しだします。ぜひ挑戦したいです。

照井：参加者）大学生です。山形の大学で学んでいる。ちょうど大江町と小国町と群馬の富岡市にお世話になっていて、地域の人との関りが大きいと思っている。地域のそこにしかない繋がりがあって、高校生まで花巻にいてリノベスクールに出会うまでは、大人がこんなに地域で頑張っていて、自分が頼れる大人がいるって知らなかった。学生のうちに街中に関わることで第２の故郷やサードプレイスにもなると思う。

青木）富岡の話は、実際に僕もまちづくりに関わっていて、まちなか留学やまちなか体験では地元の婦人服店の入山さんがとにかくいろんな大人に会わせてくれて丁稚奉公する。そのレポートをまちの人に発表して、結果また戻ってこれるような状況になる、関わった人が帰って来たくなる状況。あと、街中でキャンパスとしながらやっていること、関心のある人が集まるから閉じない方がいい。富士大生が集まってきて、一緒に高校生も集まってきて、こんな話が出来るなら富士大にいこうとかの話になるかもしれない。とにかくたくさんの人が混ざり合うことが大事。あと、先生になる人のことだけど、小友さんが聞きたい花巻の経営者を大学を通じて話してもらったり、ここにいる人が気になった話を学生も一緒に聞いて、聞いた感想を学生と一緒に語り合ったりするのもいいですね。では高校生の話も聞いてみましょう。十代の発言をぜひ。

八重樫：参加者）花北青雲高校３年です。実際、学校で生活していて、実際に社会に出て役立つような勉強かどうかが地域の人と関わることがないと分からなかった。ハナレヤ（学生主体で活動している団体）に所属してからいろいろな大人の人達の話を聞くことで、将来の関心を持てたところがある。高校とまちづくりをする大人とが関わる授業や機会があればいいと思う。

青木）素晴らしいね。こういう声があるのだから、やるしかない。構想にしっかり組み込んでいった方がいい。高校生も大事、学生だけじゃなくて大人といろいろ混ざり合っていって、実際に創業までアウトプットできて、大人と一緒にやりたいことが実現できて行けばいい。相乗り立上げみたいな形で。

長井）バブソン大学、ボストンだったと思うけれど、いくつかの学生グループに３０万円渡して実際に起業させて最後の解散まで研究として取り組むということをやっている。ゼミや事業をするようなことを、富士大でもできうる方向で構想に盛り込め良いのかも知れない。

小友）地元企業がスポンサーするでしょう。それをやるっていうと学生に地元企業がお金出して支援すると思う。

遠藤）県農林水産部がやっている起業ワイルドカップに、富士大が 3 年連続でトップをとっている。リンドウからインクをつくったりワサビから何かをつくったりするアイデアを出していて、県立大や岩大と競って農業部門のイメージでやっているが、今の話のようなことを考える先生が数人いるので実現しそうな気がする。

青木）大学の中でそういう話になればいいし、高校生がコメントしてくれているので、まずその高校に声かけして欲しい。こういう高校生が参加しやすいように合同授業でもいいから。こういう場合は行政が動く方がやりやすいと思うので、10 代からまちの大人と関わりながらアイデアをカタチにできるフィールドを創るといい。

長井）学校はなかなかハードルが高いので、行政から声掛けして媒介する方が良いと思う。図書館のワークショップなどは、生徒にとって良い経験になるということで高校の方からも理解いただいたので、そういう媒介はしっかりやりたい。

高橋久）家守舎に関わり始めてから、いろんな大人の姿をみて息子が影響を受けるようになったと感じる。本人の決断があって留学したのも、おそらく小友さんなど親よりも年の近い人から影響を受けたと思う。自分の人生を主体的に考えることが早い段階でできていたら、夢も広がるし現実味を増し、まちのことも子供なりによく考えるようになるのでは。意外と子供は文化祭などで企画などを真剣に立ててやってたりするので、広場とか街中にもっと子供も混ざって出店したりして、大人と一緒にビジネス面で成長し、子どもと大人がうまく巡るといい。Bon D プランニングで、高校に投げかけてもなかなか民間からは伝えるのが難しいことも多い。ここで目指す「住んで働いて遊ぶ学ぶ」が明確化して広がると、もっと確実にたくさんの人に広がるのでは。

清水頭）3 年ほど前に高校生への提案をした際、教育委員会や県の教育関係を通さないといけないハードルがあって、また授業計画上対応困難ということで、ストップしてしまった。壁が厚くて、民間活動に学生が参加するのには、時間と力がすごくかかる。けれど学ぶことに関しては熱意が高い地域で、工業クラブで実施している発明クラブなどもあるし、今日の参加している人のアイディアを市や教育関係の方が受け入れてくれように考えてほしいと思います。

内田：参加者）任意の団体として「はなれや」というグループ活動をしていて、2016 年から地元花巻の高校生に向けた社会プログラム「まち塾」という企画をやっている。経営者の話を聞いたり事業をやったり収益を得たり、1 年間を通して自分たちで社会を学ぶプログラムをやっている。初年度は 10 人くらい参加していて、その後少し間が空いたけれど今年から復活し、今は高校生、大学生に参加してもらいながらやっている。毎月やっているので、ぜひ興味ある方は見学等参加して欲しいし、あと、もう少し地域やまちで活動している方と連携していきたいとも思っている。地域に興味を持っていたり、愛着を持っている学生が沢山いる。

青木）今チャットで書かれている内容なども整理して参加者皆さんにお伝えしようと思います。あと子育てをしている親御さんも含めて、あらゆる年代の人達が集まって勉強する場を持っておくともっと可能性が広

がるんじゃないかと思うのと、お互いがお互いを知り、それらが連携するようになるとよいと思う。混ざり合うとか関わり合うというのがキーワードで出て来た。それによってまちなかに街中で自然に人と触れ合って、意識しなくても参加できるフィールドができたらいい。それが幹になることを意識する人が増えていくといいのだろう。その文脈で福田さんが書いてるように質という意識を落とし込めたらいい。

ぜひ、この場だけで終わらずにこの後も言葉とイメージを集め続けてほしい。タイトルもブラッシュアップして共有していきたいい。ぜひ花巻にいる人は、いろんなところで話しあいに参加してもらい、感想を事務局にぶつけて欲しい。

山崎）僕から 2 つ話しておきたい。一つはたった短い時間でこれだけのことが出て来たことは花巻のコアの価値だと思う。で、いいアイデアを行政に生の状態で投げるだけでなく、もうワンクッション自分たちで揉んでみることが重要で、もっと小さいグループで詰めたり、あるいは学生と繋がったりして、それを濃くしていくことが大事だと思う。外からの人でなく、これをどうやったらもっとうまく行って自分たちは楽しいかってことは自分たちで探り続けていってほしいと思う。せっかくマルカンやブリューワリーがあったりするので、みんなで集まって頻繁に話して進めて欲しい。

あともう一つはこうした話し合いを調整する横串を庁内にもっておいていただいて、市の方でも良い素晴らしい意見が上がってきたら、実現に向けて連携して、何なら直接担当者と民間が話しできるような横のつながりを付けて、面で受けれるように部署丸抱えで体制づくりをやって欲しい。

この 2 つ、この両輪が回ってくると新しいことがより現実としてあがっていくと思う。

青木）アフタートークを地元のみなさんで継続していただき、事務局にあげていただきたいと思います。構想が上がる前にもう進めたい事とかはどんどん入れていくことが良いと思います。では、本日の協議の部についてはここで終了します。

（協議終了後、事務連絡し会議終了）